

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はわかりやすい文章になっているが、十分に練り上げられたものとは言えない。ましてかみ砕いて消化できるまでには時間が必要と考えている。	○	理念学習
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者といっても完全にローテーションに入っているので場面、場面で利用者様に寄り添うケアを実践し、また職員にも言葉だけでなく対応で示しているつもりであるが、それでも十分にできている自信はない。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	総合福祉施設なので、施設全体で取り組むイベントは多い。施設の取り組みをスライドにしてイベントの機会に、また運営協議会、またホームページ、お便りなどで紹介している。		
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所つき合いと言えばお隣のユニットであったり、上階のケア付き有料ホーム、また住宅型の住人との交流であったり、地域のお祭り、また施設の諸行事中での交流にとどまっている。地理的に、また車椅子レベルの方にとって気軽にお出かけしてご近所の方と交流するというのは現状ではむづかしい。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りを地域と協力して取り組んだり、おくんちでは奉納踊りを披露して頂いたり、少しずつ地域との関係づくりが進んでいる。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	パートナーの健康友の会では保険大学や地域の班会を組織して健康教育や認知症の学習会などに取り組んでいるが、ホーム独自では今後の課題になっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は十分に理解しているが、課題が大きすぎ、まだまだ手探り状態にある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1回実施。それぞれのユニットから詳しく情報提供をおこなっている。よくわからないのと説明をもとめられることも多い。とくに地域が協力できる資源(ボランティアや踊りのできる方など)については民政委員の方から紹介しますとの言葉を頂いている。市の実施指導の評価についても報告。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長や事務長は窓口との連絡をとりあっているが、管理者が連絡を取り合うというのは、請求業務の不明な点の問い合わせ、また実施指導の事後位。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員が熟知しているとは言えない。必要な方があれば活用したい。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で虐待防止関連法について学習したわけではない。これまで入居前の情報では虐待の事実は見受けられない。2ユニットで二人夜勤なので、利用者様の安全を最優先に、また夜勤者にも過重な負担にならないように連携しながら対応しており、事業所内の虐待はないと確信している。注意、防止に今後も努めたい。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各書面については事前にお渡し、入居時に署名、捺印を頂いている。不安や疑問についてはその時点で説明し、了承を得ている。これまでのところ苦情などはない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満については管理者で解決できるものについては速やかに対処、職員の口調がきついと指摘があれば当事者に注意・その後良い関係づくりができています。只記録が不備。	○	今後細かいことでも記録に残していく。また施設長へ報告を行う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時状況説明、またその都度電話で報告。お便りでもお知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者の判断で直ちに解決できるものについては上部まで報告はしないこともある。ただ業務日誌に記載があれば、また事故報告書などについては毎日管理部の点検を受ける手順になっている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の場としては月1回の部門会議がある。会議報告については全員に文書で返している。また10の専門委員会に全員が委員として参加、毎月の定例会議の場で意見を言い、提案。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な事態があれば勤務調整は可能。常時管理者、日勤者がいるわけではないが施設全体の支援を依頼することは可能。急変時他部所の看護師の支援など。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の視野を広げる、またストレスへの対処を考えると異動については、職員にとって必要、また望ましい事も多い。利用者への影響については、現状ではカバーできると考えるが、影響を最小限にすることは当然考えなければならないことである。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として段階的に制度教育を行っているが、認知症についての専門的研修会に事業所として参加を保障する機会は少ない。業務外の自主研修の機会は多々あり、参加の呼びかけはしているが、職員が主体的に参加するとはなっていない。	○	業務外でも主体的に参加する、また交代で参加する働きかけを行っていききたい。また参加者から帰り報告をしてもらい、学ぶ雰囲気づくりに努めていききたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の学習会や同業者主催の学習会に参加を呼びかけてはいるが、参加者が少なく、今後の働きかけがもっと必要と考える。	○	連絡協議会や行政、地域の他事業所主催の学習会へ積極的に参加し、学び交流する意義を職員が認識できる職場づくりをすすめる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的な面接は行われている。またメンタルヘルスの学習会が予定されており、管理者の参加が要請されている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働条件で言えば、生理休暇や有給などは希望どおりに取得できている。また管理者以外は休日出勤、また残業は皆無といえる。民主的な職場であると自負できる。		
	<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前にご自宅に訪問し、ご本人、またご家族の要望を聞いて、受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居される前にご自宅に訪問し、ご本人、またご家族の要望を聞いて、受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設は複合施設なので、相談者にとってベターな方法を管理部とも相談しながら考えるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初はご家族が頻りに訪問して下さった方もおり、ご家族と共に、入居者様の居場所の確認を行っていった。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	望ましいことではないにしても記録しながら利用者の傍に寄り添っている日常がある。入居者様の方から、「手伝うよ」と言って下さる事が度々ある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会は多い。ご家族も協力できることはしたい思いを持っておられるので、行事の案内、野外レクの同行をお願いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	直接的な支援は娘さんであることが多く、母娘の関係が強い反面、負担を感じる時もあるようで、ご本人の立場に立ち、さりげなくフォロー、共に良い関係が長続きできることを願っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人との関わりはご家族が殆どであるが、近所の方や、以前一緒に働いていたという方が会いに来られたりする事もあり、いつでも会いに来て下さる様、お話ししている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の誰かが外出などで席にいないと心配される事が多く、それぞれがお互いの事を気にし合っている様である。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方は亡くなっており、継続的な関わりはないが、ご家族とお会いする機会があり、亡くなった後のフォローになっているかは解らないがお話はしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の介助を拒まれる方への対応が難しいが、転倒の危険がない様見守りに徹しており、ひどい失禁などがない限りは見えて見ぬ振りをすることもある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を家族側にも協力していただき、情報の把握に努めました。また、CMと連絡をとり、情報を提供していただき、保管しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝食や昼食をお一人で摂られる方がいらっしゃるが、その方のペースに合わせ、いつでも暖かい食事が提供できるようにしている。入浴を拒まれる方に対しては、ご本人の気が進むまで待つようにしている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書が全員について十分検討されたものとは言えない。とくに具体的なことは部門会議や職員の連絡ノートに書き、全員で確認するようにはしており、計画書に文章として即修正するとはなっていない。	○	記録そのもの、またセンター方式についても学習不足で今後の課題である。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が急変、レベルダウンが明らかである場合は変更も、計画書が現状に追いつけない実態がある。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は一日の過ごし方の印象で、おおまかな記述が殆どであり、気づき、また工夫が多々なされていても記録に反映されていない現状がある。	○	生き生きイメージできる記録についての工夫

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設が保育所を含めた複合施設なので、入居希望者についてどの機能がもっともふさわしいかは常時検討されている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	連携は十分とは言えない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	対象事例が今のところいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	対象事例が今のところいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から月2回の定期往診を受けている。往診管理でない方はご家族が定期的に受診に同行して下さっている。緊急時は職員が受診に同行することも多いが、ご家族が来れるということであればご家族に同行して頂いている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医にかかっている方は現在1名のみである。ご家族を通しての相談はあるが、直接問い合わせる事はない。	○	認知症専門の医師へいつでも相談できる関係作り
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が常勤しているので24時間連絡は可能。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	この間、入院例は多く、入院時ホームから情報提供を行い、病室訪問したり、ご家族とも連絡をとりあい、病棟とも退院前のカンファレンスなどを行い、連携をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護指針は全体で確認している。また看取り介護の経験を持っている事業所から事例を報告して頂く機会を設けたり、職員の心構えをつくりつつある段階。	○	ターミナルケアのマニュアル作成と関係職員との連携づくり、また経験をもつ事業所研修
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	準備の段階		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の場所へ移り住んだ方はおられないが、骨折により入院され、その間他院を受診し、転院が決まり退去に至った方がおられた。その際、こちらに相談はなかった為、情報提供を行う事もなかった。		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	努力しているが、100%とはいえない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の言葉かけに○○して下さい。○○しようの指示的言葉がまだ多い。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分でその日のその方のペースが決まっているのではないかと思われる。ただし、一日中その時の気分が続く訳ではない事が多い為、その都度希望を聞いている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族に協力出来る方はなじみのところへ連れて行っていただく。ご本人の希望があれば応えたいと思う。月に2回訪問理容を利用できるので希望を聞いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の厨房は外食産業に委託、管理栄養士が常駐しており、施設に給食委員会があり、定期的に要望を出し、工夫してもらっている。グループホームでは毎食のご飯と汁物を作っているが、素朴なもの、またリッチなものを希望されるので、たまに出前をとったり、利用者様と食事をつくる機会を月2回実施。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒を飲まれる方はいない。常時紅茶、コーヒー、また手作りオヤツは希望を聞きながら作るようにしている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中もリハビリパンツを使用していた方が2名おられたが、1名は夜のみに変更。もう1名は布パンツとパットに変更した。失敗を減らす様、時間やタイミングを見て排泄誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくり時間をかけ、職員とコミュニケーションを取り合う貴重な場面になっている。希望時は何時でも入浴は可能。何時から入浴するかご本人に決めて頂く事もあり。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日座っている時間の長い方もおられるので、声かけしたり、昼食後は居室で1時間余り休んでいただくようにしている。ソファ、また畳コーナーを希望される場合はそこに休んで頂いている。就寝前に足浴をされる方もおられる。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の生活が単調にならないよう、大きな笑い声えに包まれるような暮らしをと思い、工夫しているが、その方らしく、普通の暮らしといえるのか自問自答している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣いを持っておられる方もおられ、職員と一緒に買い物の機会を作ることもあるが、頻度は少ない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設が斜面地帯で、買い物に不便な場所があり、気軽に出かけることができない。車椅子対応の車は確保できるが、職員2名同行となると現状は厳しい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じられる野外レク、また長崎市のさまざまなイベントには特別な体制を作り可能な限り参加を支援、また個別に対応する努力をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務室のを使って頂いている。手紙を書く方は、職員がポストへの投函を行っている。また、切手がない場合は貸し出しし、後日利用料と共に請求することもあり。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問を受け入れており、ご家族も家族の一員と受け止めている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	止む得ず、居室に離床センサーマットを敷いている方がおられるが、ご家族、またご本人に説明し、同意を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火訓練については施設全体として2回実施。ホームとしてはとくに夜勤時のマニュアルを出勤時確認。学習会についても施設として行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生について2回全員が講習を受けた。施設として今後も継続。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒リスクが高く離床センサーマットを使用せざるを得ない方については随時ご家族、また本人に説明し同意を得て、状況を見ながら解除。それ以外に拘束の手段はとっていない。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常に気づいた時、判断に迷う場合は看護師に連絡し、指示を受けている。記録、口答での引き継ぎを確実にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬のミスを防ぐため調剤薬局がODPとして、一袋毎にフルネームと服用時間を記載してくれている。また説明書が同封されており、変更時は確実に引き継ぎを行っている。また誤薬の無いよう、確実な内服に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は管理栄養士が行っている。水分補給に努めたり、便秘の方には指示の座薬と下剤を使用している方もおられる。運動量不足は否めない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内のチェック、また口腔ケアには努めている。また必要とされる場合は歯科の訪問診療を定期的に受けている方もいる。舌マッサージ、また不十分な方、できない方には支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居して太った方がおられ、ご家族より主食を減らして欲しいとの依頼があった(2名)。水分摂取が少ない方に対しては、いつでも飲める様、お茶をテーブルに置いておいたりする事もあり。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内に感染委員会があり各部署より看護師を始め代表で構成、毎月1回学習やマニュアルの検討、情報交換を行っている。インフルエンザの予防接種については入居者はもちろん職員も全員接種を原則にしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には特に注意している。調理や盛りつけに使用するエプロンは毎日洗う。手洗いの徹底。食器や調理器具は乾燥を徹底、また台ふきやまな板は毎日ハイター消毒など。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の玄関があり、2Fに上がってホームの玄関になる。バリアフリーで、靴を座ってはけるように籐椅子を置き、安全面では配慮も家庭的な工夫は今1つ。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間が広く、ガラス戸が天井までの高さで、向かいの保育園が見える。窓を開けていると、子供の声が聞こえて来る為、声に釣られてウッドデッキへ出られる方もおられる。外が十分に見渡せ、四季を感じる事ができる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には広い畳の空間、またソファ、椅子があり、何時でも思い思いに利用できる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の思いが伝わる工夫がされている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場、床暖房、また暖房が入るので、どうしても乾燥しがち。居室に加湿器を個人で使用される方もおられるが、洗面台に水をためたり、こまめに換気をするようにしている。居間の湿度計を常チェックしている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はクッションの入った敷物なので衝撃が和らげられ、すべりにくく、疲れにくい。トイレ、廊下のですりは十分である。バリアフリーなので、一人一人にとってとなると難しいが、より安全と言える。只脱衣室のですりが不備。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室とトイレのドアが同じ形、色でわかりにくい。広すぎるので、方向がわからず、ご自分の部屋を認識できない方もおられる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	暖かい日にはテーブル、また椅子やシートを出して食事ができる十分な広さのデッキがあり、日光浴も何時でもできる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 ○ 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない